

岐大のいぶき

vol.1

2001/FEBRUARY

発行日：平成13年2月
発行：岐阜大学
岐阜市柳戸1番1
☎058-230-1111(代)
ホームページ：www.gifu-u.ac.jp

DAI NO IBUKI GIDAI NO IBUKI GIDAI NO IBUKI GIDAI NO IBUKI GIDAI NO IBUKI GIDAI NO IBUKI GIDAI NO IBUKI GIDAI NO

Published by GIFU UNIVERSITY

新たな広報誌の発行にあたって

岐阜大学長：金崎俊夫

2P

地域における大学

話題の研究

あなたの町の地震危険度診断

工学部：杉戸真太教授

「ヒトに優しい次世代型畜産物生産方法」

の提案をめざす－おいしい肉を求めて－

農学部：鈴木文昭教授

女性史に挑戦－近世庶民の結婚にみる女性の位置－

地域科学部：松田之利教授

授業風景

調理学演習(卒論セミナー) / 基礎看護方法論

座談会

新しい医学教育：チューリアル教育・クリニカルクラークシップ

－卒前卒後の臨床・研究へ－

キャンパスツアー(柳戸地区)

CAMPUS MAP ～岐大の自然～

公開講座の紹介

10・11P

12・13P

14・15P

16P



岐阜大学

新たな広報誌の 発刊にあたって

学長 金城 俊夫



「21世紀の大学像と今後の改革方策について」と題する大学審議会の答申（平成10年10月）の中で、大学情報の提供に関して次のように述べています。

「大学入学希望者などの直接の利用者や一般の国民が必要とする大学情報を分かりやすく提供することは、公共的な機関としての大学の社会的な責務である。」と。

大学における教育研究活動については、かねてから、閉鎖的で国民に対して開かれたものとなっていないとの指摘がありました。

本学では教育研究の内容に関する情報を社会に向けて発信すると同時に、社会からどのように受け止められ、理解されているかについても情報を入手することに努めるべく、既に、「岐阜大学における広報の在り方検討委員会」を設け、検討していました。

その検討結果の答申（平成8年2月）の中で、これまで教育研究活動などについて、印刷物・刊行物などの発行を通して学内外に幅広い情報を発信してきているが、受験生に対する入試情報の提供は別として、広報といえば往々にして学内の教職員や学生を対象とする傾向にあり、今後、学外に対して積極的に情報を提供する必要性を指摘しています。さらに情報化、国際化が急速に進展する中で、インターネットなど新しいメディアの利活用も含めて、多様なニーズに応える広報活動を活発化すべきだと提言しています。

この提言を受け、本学では事務局総務部に広報室を設け、ホームページを開設し、各種広報誌を来学する学外者に関覧可能なように展示場所を設定するなど改善に努めてきました。

そのような努力の結果、確かに大学の研究や教育活動

などの状況が、学内外に発信されるようになってきましたが、これらの広報資料はまだどちらかというと公式文書にありがちな堅苦しい表現になっているものが多く、気楽に見て、読んでもらうものではなさそうに思えます。

一方、今回の大学審議会答申を受け、本学でも大学改革検討委員会を設け、具体的改革方策について提言してもらいました。

その中で、「教育研究及び組織運営の状況の公表」について、ホームページ上での研究者紹介及び情報誌の定期発刊等、大学の研究課題に関する情報の提供と教育研究及び組織運営の状況を提供することを提案しています。

今回、今までの広報の在り方に対する反省や新たな提案などを踏まえて、一方では本学の将来構想など難しい課題の解説も試み、他方では学内のユニークな研究や話題の授業の紹介、自慢の研究室や教育研究施設のPR、教職員、学生のインタビュー記事など、学内の様子が楽しく、気楽に分かっていただけるような、そういう学外向けの新たな広報誌を発刊することにしました。

この新たな広報誌が大学進学を目指す高校生や、地域社会の皆さんと大学の教職員、学生を結ぶ良き情報の媒体になればと願っています。

私たちが期待しているような広報誌にするためには、読者の皆様の温かいご支援、ご協力が欠かせません。

是非、忌憚のないご批判を賜り、親しみやすく読みやすい広報誌に育ててくださるようお願いいたします。

最後に、編集に当たられる皆様のご苦勞に敬意を表し、所期の目的が達せられる広報誌となりますよう一層のご努力をお願いします。



地域における大学



「近年、社会に開かれた大学ということが重視されるようになってきており、岐阜大学でもいろいろな取組が行われています。一つは企業との共同研究、もう一つは公開講座、三つめは大学人による社会のさまざまなフィールドでの活動です。これも社会との連携の一つであると思いますが、今回、産・官・学の共同というところで、中心的な役割を担っている地域共同研究センター、そのセンター長である堂田先生にいろいろお話をいただきたいと思っています。まず地域共同研究センターのお仕事から紹介してください。」

堂田：地域共同研究センターは、大学が外部の企業、団体と共同研究あるいは地域社会と何らかの交流をする場合の窓口です。センターができて十年ちよつと、正確には昭和六十三年四月にできたのですが、ただ十年前と現在では社会が大学に要求する内容もずいぶん変わってきています。そういう意味では、創立時にうたいあげたセンターの趣旨と目的が現状に合っているとは思っていません。ただ、基本的には大学の知的財産を社会に還元する、あるいは社会の要求に応える活動等をアシストしたり、実行部隊として働くということです。

ちなみに共同研究件数については、平成七年度ではせいぜい十数件でしたが、平成十年度以降はこれが急激に増え、現在では五十三件(平成十三年一月現在の共同研究を行っています)です。それは社会の側に何か大きな変化が出てきているからとお考えですか。

堂田：大学の社会的な存在意義、今日までどんな役割を演じてきたかということから考えてみますと、今後ますます大学の知的財産を社会に還元する必要があると思っています。ややもするとそのためのアクションが少なかつたために、いま大学に対して改革が求められているのではないかと考えています。社会が変わ

るんありますが、大学は謙虚に反省をする必要がある。そう考えると大学が社会に対する働きかけをもっとしてもいいんじゃないかということを感じます。

「さらにいつそう共同研究をすすめるためにどんな手だてをお考えですか。」

堂田：まず技術系と社会、人文系ではシーズ(新しく提供する特別の技術や材料)、ニーズの出し方が違うと思いますが、いろんな機会を通して大学のシーズを紹介しています。データベースを作ればそれで良いという問題ではないと思います。各分野にどういう先生方がいてどんな研究をやっているか、こういう問題はどこに相談に行けばよいか、そういう情報手段を今後作っていく必要があります。現在、研究相談という業務の中でそれに近い先生方を紹介することはやっていますが十分とは言えません。

「当面地域共同研究センターが抱えている課題、ここ数年ぐらいのスパンで見据えた課題としては何が重要ですか。」

堂田：外部の人からみると大学は敷居が高い。これを低くすることがひとつですね。それが一番大きな問題です。またそれぞれの教員の方々が社会との連携をもたれていますが、新たな要求が出てきていると思うのです。だからそれに

対してどう応えていくかが地域共同研究センターの役割です。センターが大学と外部とのパイプ役となり、双方の交流の場を提供する組織になりたいと思っています。

「最後に社会へのメッセージをお伺いしたいと思います。」

堂田：あえていうなら大学自身が社会の中にどう存在意義を確立するかが重要課題だと考えています。今後、交流の場をいろいろな形で作っていききたい。ですから社会も大学に気軽に声をかけていただきたい。その中からお互いにメリットのある方向が見いだせるのではないかと、そんなふうに考えています。

「ありがとうございました。そういう意味では社会に開かれた大学を代表するような、接点の役割を果たす地域共同研究センターの役目は大きいと思います。」



堂田邦明地域共同研究センター長
工学部機械システム工学科教授



あなたの町の地震危険度診断

工学部土木工学科 杉戸真太



1 こんにちは！

地震工学研究室へようこそ

工学部土木工学科には「地球断学」というちよつと変わった名の講座があります。そこには九人の教員が所属していますが、その中で、私と能高暢助教授、古本吉倫助手の三人が、一組になり地震工学関連の教育・研究活動をしています。偶然にも、このスタッフ三人のファーストネームが読みづらいたと思いますが、一人でも読めたでしょうか？正解は、Masata、Nobuoto、Yoshimaruです。我々は当研究室を「地震工学研究室」と呼ぶことにしています。最近の研究テーマや研究室の学生さんの様子は、最後に示しましたホームページに詳しく出ていますので是非ご覧ください。

さて今回は、将来起こるかもし

れない。想定断層による震度分布の予測を当研究室の開発プログラムを使って行った結果について紹介いたします。

2 パソコンを使って震度分布を予測してみると

岐阜県は本当に危険？

中部地方は日本列島周辺のプレート運動により、図1のようにおむね東西方向に圧縮力を受けています。このため、力を受ける東

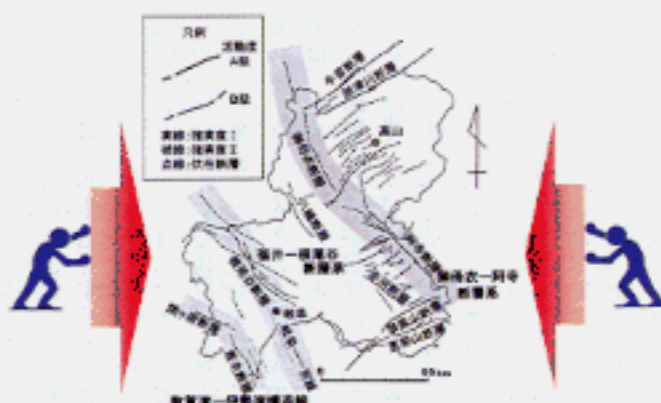


図1 東西方向に圧縮力を受ける岐阜県周辺における主な活断層 (岐阜県地震被害想定調査, 1998)

西方向に対して四十五度の方角に活断層が発達し、それらは断層系を構成しています。約百年前の濃尾地震の震源断層は、福井・根尾谷断層系で発生したものであり、内陸の地震としては最大級のものでした。また、信長や秀吉が覇権を争っていた頃に発生した一五九二年の天正大地震の断層は、一説には岐阜県東部の阿寺断層系だったとも言われています。日本列島のなかでも、はつきりした活断層がこれほど多く分布しているのはこの中部地方だけであり、その中でも岐阜県域はとりわけ大きな活断層があるところだ。したがって、震源断層を特定した精度の高い地震被害想定を行い、来るべき地震に万全の対策を講じておく必要があります。

断層近傍の強震動の特徴と震度分布を予測すると

先の兵庫県南部地震では、断層のごく近傍での強大な破壊力を持つ地震動の特性について多くのことを学びまし

た。また、構造物に被害を与えるような周期0.2〜1秒程度の地震動は、地表面近くの地盤の影響を強く受け、ごく近くの地点においても地震動が大きく異なることがあることも実証されました。これらのことから、断層を想定して任意地点での地震動を推定する場合には、図2に示されるように二つの過程を踏むこととなります。

まず、断層の広がりや破壊伝播方向などの震源特性を考慮した差盤レベルでの地震動を推定し(過程

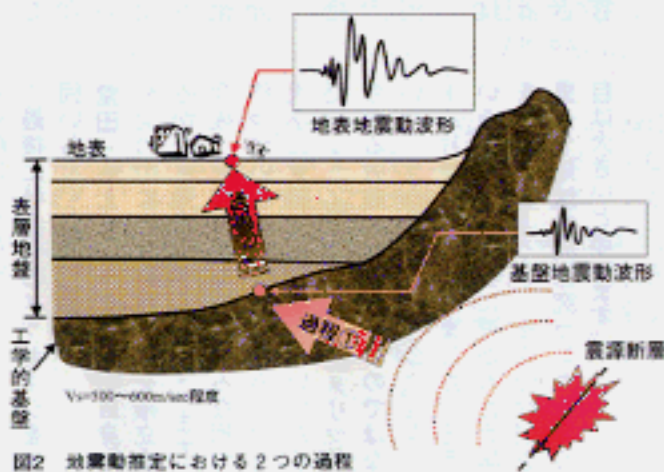


図2 地震動推定における2つの過程

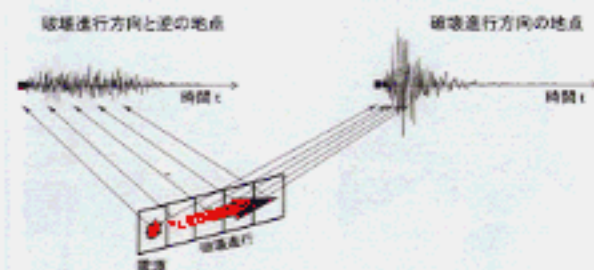


図3 地震断層と着目地点との関係による地震動の特性の違い

①、次に表層地盤の影響を考慮した地表での地震動を推定します(過程②)。

断層近傍での基礎地震動推定では、とくに断層の広がりや着目地点との相対的位置関係、断層のどの部分で大きな破壊が生じるか、断層の破壊伝播はどのように進展するのか、などを考慮して計算する必要があります。将来を予測する地震が相手ですから、断層に関するあまり詳細なことは前もってはわかりませんが、地震動の破壊力に関する重要な条件については十分検討しなくてはなりません。たとえば、断層の破壊が伝播する方向は、とても重要なパラメータです。図3に示されるように、断層

までの距離が同程度でも、破壊が進行する方向に位置する地点では地震動がより短い時間に大きな振幅となって来襲し、破壊が遠ざかる方向の地点では振幅が小さくなるが継続時間が長くなります。当研究室では、このような影響を考慮した強震動シミュレーション法を開発してきました。

次に、表層地盤の影響に関しては、個々の地点の特徴をそれぞれ正確に考慮するための計算を必要とします。岐阜県の地震被害想定調査委員会(委員長・工学部宇野尚雄教授)では、県域を約一ナメツシユの三万点あまりに分割し、数千本のボーリング柱状図や地形・地質図をもとに約四十種の地盤モデルを割り当てております。

さて、これまでに当研究室にて開発された強震動予測に関する手法を用いて、想定地震による岐阜県域での震度分布予測を行った例を示します。図1における活断層分布から、想定地震として県北部に位置する「跡津川断層」を対象としました。断層の長さは一リ六十kmで、兵庫県南部地震の断層(約四十km)よりも大きな断層です。震源を断層の北端とし、破壊伝播が県中心部に向かうと仮定しました。表層地盤特性を考慮した地表での地震動を計算し、それよ

り震度(気象庁の計測震度階)を算定したものを図4に示しました。計算時間は通常のパソコンで数時間程度です。

破壊が進行する方向で大きな震度の領域が広がること、岐阜市以南の軟弱地盤地域では相対的に震度が高くなること、他の地域でも部分的に震度が高くなるところがあること、などが見られます。このシミュレーションの結果は、あくまでも平均的な値であり、実際にはここで考慮しなかった不確定な要件が多くあることから、震度分布はさらに大きくばらつくと考えられます。

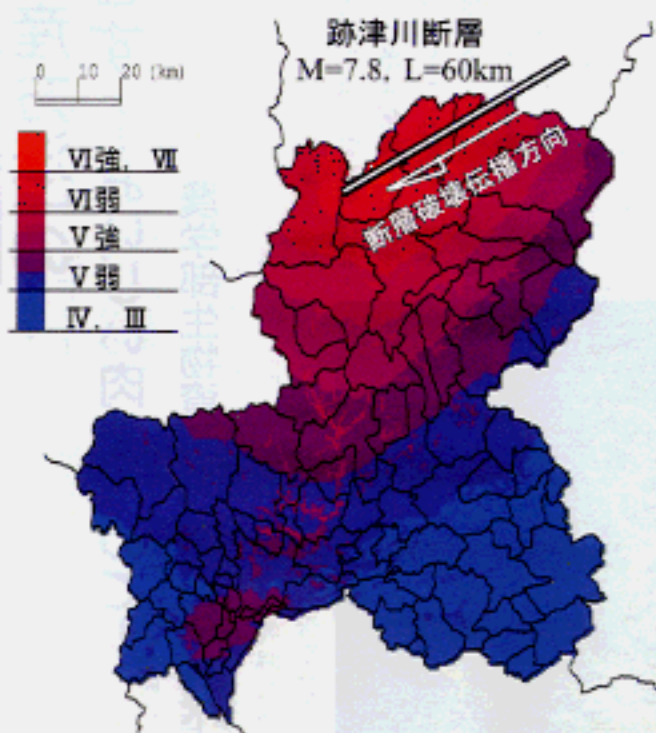


図4 想定跡津川断層による震度分布の推定結果

3 ホームページで

お会いしましょう!

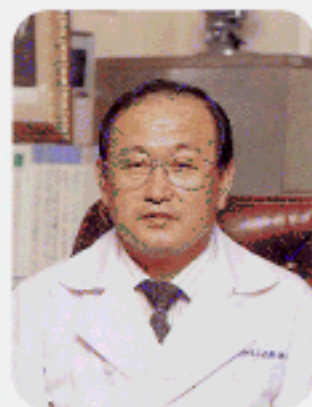
今回紹介しましたシミュレーションが一般の方々でも簡単に体験できるようなソフトを、現在開発中です。当研究室ではホームページを作り、最近の諸外国の被害地震への適用例や研究室の研究内容全般、さらに学生も含めた研究室スタッフ紹介もしております。左記のURLを是非訪問してください。また、ご意見など頂ければ幸いです。

研究室URL:
<http://www.cive.gifu-u.ac.jp/lab/ed2/>



「ヒトに優しい次世代型畜産物生産方法」の提案をめざす——おいしい肉を求めて——

農学部生物資源生産学科 鈴木文昭



した研究をスタートしました。

いま、日本に住む成人の六人に一人は生活習慣病（以前は成人病といわれた）であるといわれています。その数は年々増加しています。生活習慣病はその名のとおり、生活習慣を改めるだけで、薬に頼らず健康が回復できる病気のことです。ですから、

「健康を保つこと」、これは私達にとって大変難しいことです。この難問をどのように解くかは、人類に与えられた共通で重要な課題の一つといえます。私達は毎日、肉・卵・魚や大豆を必須栄養素であるタンパク源として食べています。私は、「健康家畜から得られた新鮮な食材をヒトは本能的においしく感じ、適量を食べることは老齢期にあっても有益である」と考えています。そして私達の研究室では二十一世紀に生きる地球人のために、平成十二年四月から「ヒトに優しい畜産物作りの提案」を目指

研究成果の一つです。また、糖尿病での血液中

プロレニン濃度は、健康状態に比べて十分に高いことも確かめることができました。血液の中のインスリン（図2）値に変化がなくてもプロレニン値が高くなり始めたら、生活習慣を適正に戻す努力を始めれば、病気にならずすむ可能性が出てきました。私は、これらの研究や他の研究者達によって出

されてくる研究成果を、「健康に生きるための畜産物作りという難問解決」のために活用しようと考えています（図3）。以下にそのアイデアの一部を紹介していくことにしましょう。

日本の畜産業界はこの五十年間めざましく発展してきました。しかし、その飼育中の動物の健

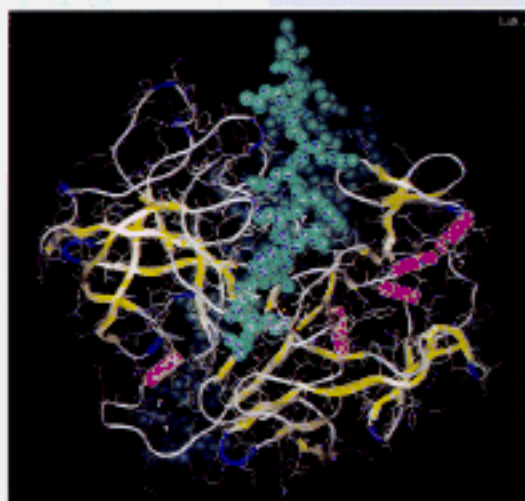


図1 プロレニン分子の立体構造モデル

康状態をヒトの場合と同様に管理している例はほとんどありません。狭い空間と人工的混合飼料（組換え作物を含む）など、いろいろなストレス下で育った家畜の体内には、いわゆる「不健康物質群（例えば活性酸素関連物質など）」が比較的高濃度に蓄積されているはず。また、ヒトでいう生活習慣病によく似た症状がでてくる可能性も考え

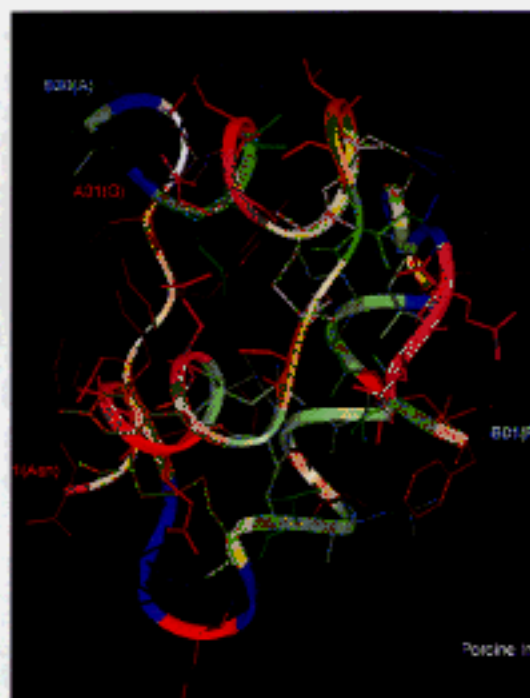


図2 血糖値の調節ホルモン・インスリンの立体構造

られます。これらの物質については生活習慣病研究において現在活発に研究されているところでは、筋肉組織（食肉部分）中には無数に大小の血管が走っていて、これら不健康物質は血管の壁にへばりつきます。これら不健康物質は、私達人間にとっても良くないもので、その量が食肉部分に少なければ少ないほど有益であるわけです。私は、これら不健康物質の体内蓄積量と血中プロレニンやインスリン量との間には関連性があると考え、現在、これらの飼育管理マーカーとしての評価を行っていますところですが、一方、動物体内には不健康物質除去機構もあります。そこで、どうしたらその

機構をより活発化させることができるかという研究も始めています。飼料組成等を工夫することで対応できればと考えています。将来、一般消費者もこれらの点に関心をもち、生産者や販売者に飼育管理についてのデータ公開を求めるようになるかもしれません。私達は、現在の生産レベルは維持したままで、家畜に不健康物質を蓄積させない飼育・生産方法を急いで確立せねばなりません。そして、その成果がヒトの健康維持の引き金になることを期待しています。（図3）

老齢化社会はもうそこまでやってきています。タンパク源として食肉を見た場合、その価値は栄養面からばかりでなく安全面からも評価する必要があります。また、生活習慣病患者の方々が病床にいても食べるこ

れ、参加や協力していただく日

これまで述べてきましたように、人間の未来に向けての畜産物の生産科学は、始まったばかりであることがわかりただけだと思います。私達の研究室では、オリジナル戦略（図3）の実現のために遺伝子、細胞そして動物個体のレベルで研究しています。本稿を読まれた多くの高校生諸君や地域社会の方々が私達の研究に興味をもたれ、参加や協力していただく日

が一日でも早くやってくることを期待しています。尚、私達の研究室仲間（岩澤助教他）や研究室情報の詳細については、ホームページ（<http://www.gifu-u.ac.jp/~aob3073/lape.html>）をご覧ください。また本稿の内容についての皆様からのご意見や感想をお待ちしています。

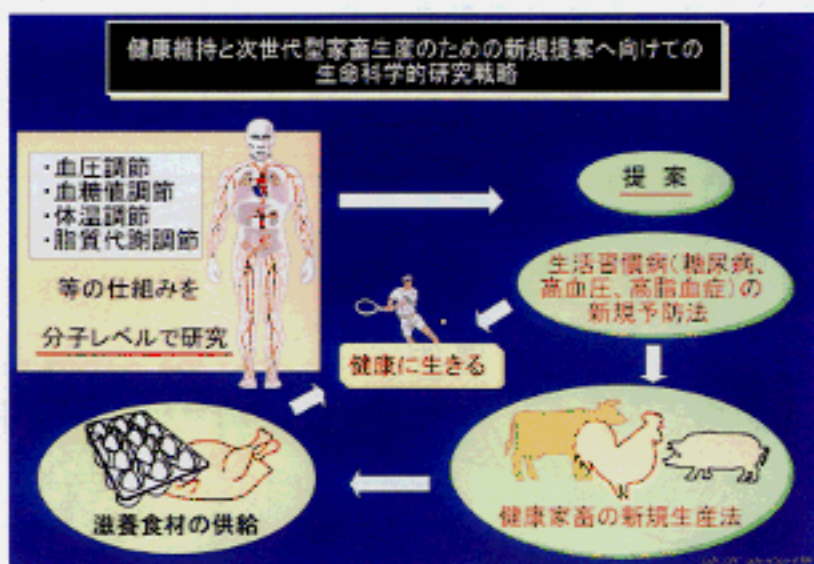


図3 私達の研究戦略



女性史に挑戦

—近世庶民の結婚にみる女性の位置—

地域科学部地域科学科 松田之利



一口に女性史といってもその視点や対象はさまざまである。私の関心事をそうした研究史のなかに位置づけ説明する必要があるが、とりあえずは庶民の「家」と、そこでの女性の在り方に関心を持っているとしておきたい。

女性学の展開とともに女性史も盛んになり、歴史学にいくつもの問題提起や新しい風を吹き込んでいるが、岐阜県内の地域史研究はそのらち外にあるように思われる。最近になって、ようやく男女共同参画課という県の行政組織が企画して近代以降の「岐阜県女性史」が編さんされたが、研究の蓄積も研究者も十分というわけではない。

いわんや県内の前近代の女性史研究はほとんど手つかずの状態であるといつてよい。近世の民衆史を研究する者の一人として責任の一端を担っており、遅きに失した感はあるが、今から少しづつ研究に着手したいと考えている。

さて、過去の家や「嫁」などを問題にするとき、明治以降になって形成されたものを江戸時代（あるいはそれ以前から）から存在していたかのように錯覚している場合が少なくない。結論を先に言えば、江戸時代と明治以降のそれは異なることが多いし、江戸時代でも時期によって同じではない。そこでまず、それぞれの時期における実態を明らかにすることが必要であり、ここではその一端を紹介することにしたい。

一六七〇年代に作成されたとされる大垣藩の法令集のなかにつぎのような条文がある。抜粋を書き下し文で示そう。（句読点、現代仮名づかいの送り仮名、括弧内は筆者。）

在々男女縁辺（縁組）の儀、その親・兄弟とも互に相談の上にて申し合はずべく候、もし娘合点仕（つかまつ）らず、男方より無理にその娘をよび候ハんと非分の申しかけ候ば、急度曲事（けしからぬこと）処罰に申付け候、付けたり（追加）、自然女男をきらい、親の所へ帰り候とも、無理に彼女を取返し申さず、子細をその村の庄屋・年寄百姓に申しとつけ、右の者ども取扱ひ、互に分かれなき様に仕るべく候、

大垣藩が領内村々に布達したこの条文は、縁組は当事者ではなく双方の親や兄弟が相談して進めるものとした上で、男が女の意思を無視して強引に結婚しようとするならば処罰するとか、女（妻）が男（夫）を嫌って実家に帰ってしまった場合に、無理に夫のもとに返すのではなく、村の庄屋や年寄（村役人）が理由を質して双方に異論がないように処置することを命じている。



図1



女性の意思や行動をそれなりに尊重する扱いを命じていることが注目されよう。

十七世紀末には加納藩で、下人(男)・下女が当事者だけで結婚することを禁止し、彼らも含めて農民の結婚は、親兄弟や仲間、村役人などの承認の下で行うべしとの法令が出されていることをあわせて考えてみると、当時の美濃地域には農民の結婚にはこれといって定まった方式があったわけではなく、ある程度「自由」に行われており、それを領主が親や村共同体の管理下に置こうとしていたことがうかがえる。

ところが、これより八十一

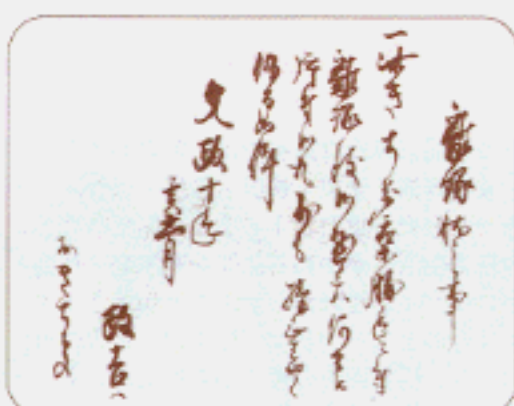


図2

十年後の宝暦九年(一七五九)に郡上藩では次のような法令が出されている。(句読点、現代仮名づかいの送り仮名、括弧内は筆者。)

縁組は双方互に相対(相談)の上これを取り結ぶべし、しかるに父母同心なく娘理不尽の儀これあるに於ては、曲事申しつくべき事

女房離別せしむるは、その敷銀ならびに衣類・道具異義なくこれを戻すべし、難渡致すべからず、但し、科を以て離別せしむるは、よめ入りの時持ち来るもの、古来よりの法儀に任せ、返すべからざるべし

付けたり、懐胎の女離別せしむるは、産の忌明け候まで八、夫の方より扶持相渡すべし、男子八父に付き、女子八母に付く作法たりといふとも、これはその身上によるべき事

結婚を双方(の父母)の同意のもとで行うこと、つまり親の結婚管理という点は先の大垣藩法と同じであるが、娘の理不尽だけが問題にされている点と、妻を離婚させる場合だけが規定されている点が大きく異なっている。また離婚に際して女が持参した財産を返却する規定も十八世紀

中ごろならではの大きな特徴であるが、返却先は彼女自身というよりは彼女の実家であって、結婚が家と家との間で行われるという意識がより強く出ている点も、十七世紀後半の大垣藩令との大きな違いである。

十七世紀末にはなぜ女性の意思が尊重されるべしとされていたのか、またそれが十八世紀の中ごろには夫が妻を離婚する場合同じか問題にされなくなったのはなぜか。それは地域差ではなく、時期的な社会的背景と領主の農民支配の在り方の違いによると考えられるのであるが、それらについては今後明らかにしていくつもりである。

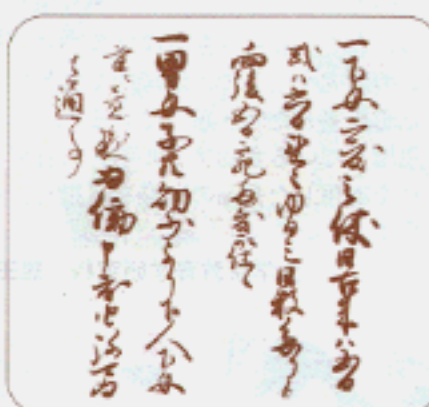


図3

図の説明

図1・祝事の図

「願四百人一首花文選」(江戸時代女性生活絵巻大巻七)「江藤一節監修、大宮社刊」より。宝暦六年(一七五六)刊で西川祐信が書いている。農村というよりは都市、それも上層の「祝事」の様子であり、婚の描き方などに一定の様式がみられるが、当時の結婚式の様子が伺える史料のひとつである。

図2・縁組状

縁組状之事

一此さち妻、我等勝手二付
縁組致し候、然上八何方江
(しるせ)

片付候共、少も縁組御座候、
ごめいごめいごめいごめいごめいごめい

仍前如件
ごめいごめいごめいごめいごめいごめい

文政十年(一八二七)亥十二月
政吉(爪印)

おきちこの
吉川弘文書院蔵

(二巻うちの古文書) 深井通子編
吉川弘文書院蔵

近世の縁組状の典型的なもので、「三くだり半」といわれたのは、文言がこのように三行半で書かれていたことによる。

難波理由が夫側の「我等勝手」にあっても、夫の方から一方的に縁組状を出していることや、離婚後に女性が誰と結婚しても異存ないという文言は多くの縁組状に共通している。

図3・下女や子供への規則

一、下女一層之休日、吉来八五日
或八六日連々ゆるミ、日数多ク候、
向後五日如面置二可仕候、

一、男女子共幼少より下人・下女
共二層夜為御申座由、欲可為
ごめいごめいごめいごめいごめいごめい

其通事
ごめいごめいごめいごめいごめいごめい

近世文書 岐阜市歴史博物館蔵

美濃国加納藩が元禄九年(一六九六)に境内に出したと思われる第一番で、農村の地主などが雇う下女の休日や五日とすること、農村の男女は子供の頃から雇用人なみに働かせるべしとしている。領主も農村においても女性を労働力としてみていることが、結婚を含む女性の位置や扱いに大きな影響を与えている。

調理学演習 (卒論セミナー)

教育学部家政教育講座では、家庭科教育・栄養・調理・家庭経済・情報・被服・環境・保育・住居といった様々な分野を専門とする7人の先生のもとで、私たちの日常生活にかかわる諸問題を家庭・社会・世界などグローバルな視野から学ぶことができます。学生・院生は今のところ全員女性ですが、3人の男性の先生がおられ、男女両方の視点から和気あいあいと学んでいます。

毎年春には卒業論文、修士論文の中間発表と懇親会を兼ねた家政科合宿があり、パーペキューやパレーボール大会を行うなど、縦にも横にも仲のよい講座です。

私が所属する長野宏子教授の調理学研究室では、古くから人々が生活に用いてきた大豆や米・小麦などの「伝統的な発酵食品」を探し、「健康にかかわる微生物」の働きとその応用について研究しています。私のテーマは世界各地で作られているパンです。

パンの歴史はととても古く、今ではイースト（酵母菌）を用いたパンを作りますが、昔は果実や野菜などを用いてパンを発酵させていました。今でもそのような伝



露店で製造される
エジプトのパン



卒業論文の中間発表

統的な作り方をしている地域があり、そういったパンを世界各地に旅行された方々に持ち帰っていただいて、パン中の微生物を調べています。

このような伝統的なパンには多種多様の微生物が存在していて、それらの中にはパンを発酵させたり、風味やテクスチャー（舌ざわり）に影響するだけでなく、アレルギーを引き起こす物質を減らしたり、その働きを弱くするものも存在しているようです。また、微生物の形態から、人々の暮らしも想像できます。

私たちはこの研究を通して、伝統的な食品や食生活を見直すことを提案したいと思っています。そして最終的には、急増している食物アレルギーに有用な働きをする微生物を応用した食品の開発を目指し、日々研究をしています。

(大学院教育学研究科 説田佑子)



研究室での1コマ (筆者撮影)



基礎看護方法論

初めて看護を学習する私たちにとって、「基礎看護方法論」は専門教育科目として最初に学習する科目であり、看護の基礎となる科目です。つまり、期待に胸を膨らませ、看護の道を歩みはじめるときに出会う看護の科目なのです。

フローレンス・ナイチンゲールが「看護覚え書」の中で「看護とは生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えることである」と定義しているように、看護者として生活過程を整えるためには専門的な知識・技術が必要となります。そこで「基礎看護方法論」では、対象の必要性にあわせて適切な看護援助ができることを目標として、具体的な看護技術（日常生活の援助・診療に伴う援助）について学習します。知識に裏付けられた技術を習得するためには、学内の演習・実習先での経験を積んでいく必要があります。

看護技術の中には、注射や採血など痛みを伴うもの



病室での実習検討会

も多くあります。患者さんに危険がないよう安全な方法でこれらの看護技術を行うと同時に、少しでも苦痛を与えないよう看護技術に磨きをかけていく必要があります。しかし、どのようにすれば安全で安楽な方法でケアできるかということについての知識があっても、実際にそれを自分で実践することは容易ではなく、私たち学生は難しいなと感じています。実習などの機会を通して、患者さんにとって「より安全で安楽な方法とは」を考えながら、少しでもよい技術が提供できるよう練習を積み重ねていくと同時に、看護者として人に接する態度も身につけたいと思っています。

(医療技術短期大学部2年 田内 香織)

(注) 医療技術短期大学部は、平成12年10月に医学部看護学科になり、平成13年4月に看護学科1期生を迎えることとなります。



大 歌声軽やか 演技も披露 合唱コンクール披露

札幌市の札幌コンサートホールKittaraで二十五日あつた第五十三回全日本合唱コンクール全国大会(全日本合唱連盟、朝日新聞)

開校五周年で、大合唱団に出演した岐阜大学コーラスクラブ「実成」が金賞とN賞を獲得した。
男二十八、女二十六人の六十六人合唱団「O's a beautiful Ho-ho」を率やかでのびのびある声で歌った。白出園は谷川俊太郎作詩、高嶋之のの「プロローグ」から「ひとりのほのほの子」まで。男性の地声男声合唱団は出た。最後列から「ほび」をあげたり、陣中で「演技」を織り交ぜ、物語風に仕上げた。
指揮者の水井英樹さん(左)は「演習も自由曲も力を出してくれた。八十五点から九十点の出来です」と学生たちのがんばりに目を細めた。チーフマネージャーでアルトの三原松子(右)さんは「素晴らしいホールで歌え、大満足」と笑顔で話した。

岐大 コラム

平成12年11月26日 朝日新聞



テーマ

「新しい医学教育：テュートリアル教育・クリニカルクラークシップ」

「卒前から卒後の臨床・研究へ」

司会：近藤 直実

(岐阜大学医学部小児科学教授、
医学部教務厚生委員長)

出席者：桐山 宗泰

(岐阜大学医学部四年生)

藤田 裕子

(岐阜大学医学部四年生)

遠藤 聡子

(岐阜大学医学部五年生)

高野 壮史

(岐阜大学医学部五年生)

加藤 善一郎

(岐阜大学医学部小児科学助手)

戸松 俊治

(セントルイス大学助教授)

ーズに応えられるより良い医師や
独創力豊かで世界にはばたく研究
者育成という医学教育の目的につ
ながることが期待されます。本日
はテュートリアル教育を中心に多
角的に意見交換をしてもらいま
す。それではまず、テュートリア
ル教育が現在進行中の医学部四年
生から、実際に行っている感想を聞
かせてください。

桐山：講義式とは異なり、各コー
スで集中的に学び、かつ自己意欲
のもとに学ぶので知識の定着に優
れています。また系統的に学べる
ため、実際の臨床のときに重要と
なる他とのつながりを含めた思考
が可能になることもメリットです。
藤田：自分で考え、数多くある情
報の中から有効なものを選択する
能力が必要であり、基礎医学が病
態生理の理解には非常に重要であ
るということに気付きました。

近藤：では問題点についてはどう
でしょうか。

徳田：時として病名を突き止める
ことに執着する傾向も出てきて、
病人を診るということを再確認し
なければならぬと感じました。

近藤：そこですね。それに加えて
テュートリアルでは病名を診断す

る以上にその過程が重要ですね。

桐山：一つの症例について深く学
ぶため、他の疾患についておろそ
かになること。レポートの評価は
どのようにしているのでしょうか。
近藤：問題を解決する仕方をマス
ターすることによって新たな問題
や症例を解決していくストラテジ
ー（戦略）が身に付きます。医学
は一生、常に新しいことに直面す
る機会も多いわけですから。レポ
ートはその追求の仕方と深さが何
よりも評価されます。

では次にテュートリアルを終
え、現在クリニカルクラークシッ
プで臨床実習を行っている医学部
五年生にテュートリアル教育が実
習でどのように生かされているか
聞きたいと思います。

高野：テュートリアルでの経験を
もとに患者さんから問題点をピッ
クアップして、問題を解決してい
くという流れがある程度可能にな
りました。治療方針についても同
じようなことがいえます。

遠藤：実際、現病歴をとる段階か
ら患者さんの言葉だけでなく、そ
こから考えられる問題点に沿って
さらに必要な情報を聞き出すこと
にも役立つと思っています。さ

近藤：本日はお集まりいただきあ
りがとうございます。医学教育の
改革がさげばれる中、岐阜大学医
学部では、全国の国公立大学に先
駆けて、テュートリアル教育とク
リニカルクラークシップ教育を積
極的に導入し、全面的な教育改革
を行ってきました。テュートリア
ル教育は、従来の講義中心の受け
身の教育とは全く異なり、課題に
対して自ら問題点をピックアップ
し、自己学習、そして問題を解決
するという極めて画期的な教育方
法で、またクリニカルクラークシ
ップはチーム医療の一員として積
極的に医療に参加する方法です。
これらの成果が卒後の、社会のニ





らに臨床実習のあらゆる場面で、積極的に知識を吸収することにもつながっていると思います。

近藤：そのとおりですね。嘔吐の患者さんを診て、問診をする段階から鑑別診断をすすめていく。頭部の疾患で吐いているのか、腹部の疾患で吐いているのかというふうに考えていくと色々関連の症状を質問したくなるわけです。

次に、加藤先生は学生時代にはテュートリアル教育を受けなかった時代ですが、現在、教官としてテュートリアル教育に携わっていますし、また、現在世界的にも大変独創的な研究もすすめています。現在の研究内容とその立場からテュートリアル教育について感想を聞かせてください。

加藤：臨床や研究を通じて最も必要なことは、現実の問題に向かい合ったときに自分で直接感じ取り、自分の頭で考え最大限の力を発揮する努力だと思います。私は現在、アレルギーなどの病因遺伝子産物である蛋白質立体構造を原子レベルで明らかにして、病態の解明、新しい医療の創生を目指しています。高度な科学に向かい合う点で、学生時代にテュートリアル教育でのトレーニングは極めて意味深いと思います。

近藤：戸松先生は岐阜大学医学部出身で十年ほど当医学部について、

現在は本学と関連しながらセントルイス大学の助教授として世界で大変活躍しています。医学生へのメッセージをどうぞ。

戸松：テュートリアル制度そのものはアメリカでも幅広く採用されていますが、学生がアイベート（討論）を通じて自分の知識や物事の考え方を学ぶ姿勢が高く、それを土台にして独創性の高い考えや医学研究への動機づけを見いだしています。僕も五年間、遺伝子疾患のモデルマウスの作製と遺伝子治療など治療法の開発を通じて独創性の大切さをひしひしと感じています。

近藤：今年のノーベル化学賞受賞者の一人に日本の白川英樹さんが選ばれましたが、お話を伺って思うことは、やはり自然界や実験室内で起こる一つ一つの現象を常識的にはおかしなということ捨ててしまわずに、冷静な感覚で謙虚に受け止め、自ら問題点をピクアップし、探求していくこだわりやの精神が大切であると思います。テュートリアル教育やクリニカルクラークシップを通じて臨床の場でも研究の場でも、相手の立場に立つことができ、かつこのような探求心が養われ、地域と地球（世界）で活躍出来るように！と思います。本日は有意義なお話をありがとうございました。

能動型/問題解決型

テュートリアル・システム



全国初の医学教育センター

岐阜大に新設

来年度

1900（平成十三年）に完成して導入された最先端の医学教育施設。従来の講義形式から、学生主体の学習スタイルへと変革し、講義以外の多岐にわたる医学教育施設を備えている。また、学内には最先端の医学教育センターが新設されることになった。

医学教育研究センター
「岐阜大学医学部」にあることから、本館の一室が医学教育研究センターとして活用される。従来の講義形式から、学生主体の学習スタイルへと変革し、講義以外の多岐にわたる医学教育施設を備えている。また、学内には最先端の医学教育センターが新設されることになった。

医学教育研究センター
「岐阜大学医学部」にあることから、本館の一室が医学教育研究センターとして活用される。従来の講義形式から、学生主体の学習スタイルへと変革し、講義以外の多岐にわたる医学教育施設を備えている。また、学内には最先端の医学教育センターが新設されることになった。

岐阜大学医学部 6年一貫カリキュラム	
1年	プレテュートリアル (400時間) 基礎医学Ⅰ 基礎医学Ⅱ 基礎医学Ⅲ 基礎医学Ⅳ 基礎医学Ⅴ 基礎医学Ⅵ 基礎医学Ⅶ 基礎医学Ⅷ 基礎医学Ⅷ 基礎医学Ⅸ 基礎医学Ⅹ 基礎医学Ⅹ
2年	1. 基礎医学 2. 基礎医学 3. 基礎医学 4. 基礎医学 5. 基礎医学 6. 基礎医学 7. 基礎医学 8. 基礎医学
3年	プレテュートリアル (2,300時間) 基礎医学Ⅺ 基礎医学Ⅻ 基礎医学Ⅼ 基礎医学Ⅽ 基礎医学Ⅾ 基礎医学Ⅿ 基礎医学ⅰ 基礎医学ⅱ 基礎医学ⅲ 基礎医学ⅴ 基礎医学ⅵ 基礎医学ⅶ 基礎医学ⅷ 基礎医学ⅸ 基礎医学ⅹ 基礎医学ⅺ 基礎医学ⅻ 基礎医学ⅼ 基礎医学ⅽ 基礎医学ⅾ 基礎医学ⅿ 基礎医学ⅿ 基礎医学ⅿ 基礎医学ⅿ
4年	臨床実習 (1,300時間) 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 臨床実習Ⅲ 臨床実習Ⅳ 臨床実習Ⅴ 臨床実習Ⅵ 臨床実習Ⅶ 臨床実習Ⅷ 臨床実習Ⅷ 臨床実習Ⅹ 臨床実習Ⅺ 臨床実習Ⅻ 臨床実習Ⅼ 臨床実習Ⅽ 臨床実習Ⅾ 臨床実習Ⅿ 臨床実習ⅰ 臨床実習ⅱ 臨床実習ⅲ 臨床実習ⅴ 臨床実習ⅵ 臨床実習ⅶ 臨床実習ⅷ 臨床実習ⅸ 臨床実習ⅹ 臨床実習ⅺ 臨床実習ⅻ 臨床実習ⅼ 臨床実習ⅽ 臨床実習ⅾ 臨床実習ⅿ 臨床実習ⅿ 臨床実習ⅿ
5年	臨床実習 (1,300時間) 臨床実習ⅿ
6年	総合実習 (200時間) 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ 総合実習Ⅲ 総合実習Ⅳ 総合実習Ⅴ 総合実習Ⅵ 総合実習Ⅶ 総合実習Ⅷ 総合実習Ⅷ 総合実習Ⅹ 総合実習Ⅺ 総合実習Ⅻ 総合実習Ⅼ 総合実習Ⅽ 総合実習Ⅾ 総合実習Ⅿ 総合実習ⅰ 総合実習ⅱ 総合実習ⅲ 総合実習ⅴ 総合実習ⅵ 総合実習ⅶ 総合実習ⅷ 総合実習ⅸ 総合実習ⅹ 総合実習ⅺ 総合実習ⅻ 総合実習ⅼ 総合実習ⅽ 総合実習ⅾ 総合実習ⅿ 総合実習ⅿ 総合実習ⅿ



12月23日 岐阜新聞



馬場



最先端の病院ができ、
医学部も移転
するんだよ

ここは最も
きれいネー



桜並木



CAMPUS MAP

～岐大の自然～



パン
園ヶ池の遠望

オースゴイワ
自然の中の街
みたいじゃない!



思わず口ずさみ
たくなるナ～

Oh!
What a beautiful
campus!

岐阜大学



岐大は
いいナ～



川と鳥たち

平成13年度岐阜大学公開講座

岐阜大学で平成13年度に予定されている公開講座について紹介します。
今年度も、一般の方・高校生等幅広い対象で開講しますので、お気軽にご参加ください。
お問い合わせは連絡先電話番号へお願いします。

講座名	開設期間	時間帯	受講料	担当部局	連絡先電話番号
免許法認定公開講座※ 教育情報論	5月26日(土) ～6月17日(日)	9:00～17:00	9,800円	教育学部	058-293-2203
免許法認定公開講座※ 学校カウンセリング特論	6月23日(土) ～7月22日(日)	9:00～17:00	9,800円		
免許法認定公開講座※ 教育実践学特論	7月27日(金) ～8月5日(日)	9:00～17:00	9,800円		
免許法認定公開講座※ 教材開発特論	9月8日(土) ～10月7日(日)	9:00～17:00	9,800円		
免許法認定公開講座※ 学校経営学特論	11月10日(土) ～12月2日(日)	9:00～17:00	9,800円		
免許法認定公開講座 美術科教育特論	9月下旬	9:00～17:00	9,800円		
親子で学ぼう 子育て広場	11月23日(金)	9:30～15:30	4,800円		
地域に生きる —パートII—(仮題)	10月6日(土) ～10月27日(土)	13:00～17:00	6,800円	地域科学部	058-293-3003
生活習慣病 —ならない ために、なったらどうする—	9月8日(土) 9日(日)	13:00～17:00	5,800円	医学部	058-267-2204
情報(IT)化時代の ものづくり技術	8月	9:30～16:30	5,800円	工学部	058-293-2365

※印の講座は、通信ネットワークシステムを用いて本学会場と遠隔会場を結び、同時授業を行います。

編集後記

編集には素人ばかりの4人、知恵を絞り出して出来上がった初めての広報誌。予想どおりと言うか、意に反してと言うか、やっぱり堅いものになったかな？ 大方のご批判をいただきよりよいものにしていきたい。まずは創刊号をお届けします。(中井)

E-mail kohositu@gifu-u.ac.jp

岐大のいぶき編集委員会

委員長 中井健一 (地域科学部)
委員 弓削 繁 賞浦秀樹 武脇 義
(教育学部) (工学部) (連合獣医学研究科)

発行

岐阜大学総務部総務課広報室
〒501-1193 岐阜市柳戸1番1
TEL 058-230-1111(代表)
058-293-2009
FAX 058-293-2021
http://www.gifu-u.ac.jp/



表紙：血糖値の調節ホルモン・インスリンの立体構造を画像処理したもの
 広報誌名の由来：「いぶき」は、湿気・岐阜県境にある伊吹山と活動をもたらす気分・生気・活気を意味する意をかけており、岐阜大学の「いぶき」を感じてほしいという願いがこめられています。
 この名前は学内で公募し多数の応募の中から広報委員会が決定しました。応募者は、総務部の吉田智子さんです。
 吉田さんからのコメント：岐大のメッセージを伊吹風（いぶきおろし；伊吹山から吹きおろす風）のごとく学外に発信してほしい。